

製品名: Shank 2 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab17852**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300
分子量	135kDa

抗原情報

遺伝子名	SHANK2
別名	SHANK2; CORTBP1; KIAA1022; SH3 and multiple ankyrin repeat domains protein 2; Shank2; Cortactin-binding protein 1; CortBP1; Proline-rich synapse-associated protein 1
遺伝子 ID	22941.0
SwissProt ID	Q9UPX8
免疫原	抗血清はヒト SHANK2 由来の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 331-380

背景

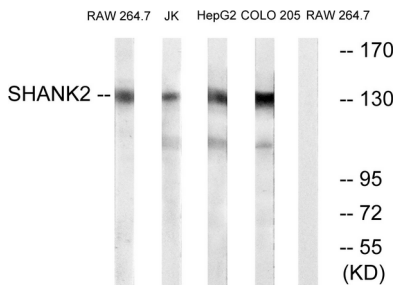
この遺伝子は、興奮性シナプスのシナプス後密度において分子骨格として機能する可能性のあるシナプスタンパク質 Shank ファミ

リーのメンバーであるタンパク質をコードしています。Shank タンパク質は、アンキリンリピートを含むタンパク質間相互作用のための複数のドメインと SH3 ドメインを含んでいます。このファミリーメンバーは、PDZ ドメイン、コルタクチン SH3 ドメイン結合ペプチドのコンセンサス配列、および不稔性 α モチーフを含んでいます。Shank 遺伝子で実証された選択的スプライシングは、成人および発達期の脳のシナプス後密度における Shank の分子構造と Shank 相互作用タンパク質のスペクトルを制御するメカニズムとして示唆されています。コードされているタンパク質の変異は、自閉症スペクトラム障害の感受性と関連している可能性があります。選択的スプライシングは、複数の転写産物バリエーションをもたらします。[RefSeq 提供、2014 年 2 月]、代替製品:追加のアイソフォームが存在するようです、ドメイン:PDZ ドメインは、GRID2、PLCB3、CFTR、および SLC9A3 との相互作用に必要です。、機能:NMDA 型および代謝型グルタミン酸受容体などのシナプス後膜の受容体とアクチンベースの細胞骨格を相互接続する興奮性シナプスのシナプス後密度 (PSD) 内のアダプタータンパク質であると思われます。樹状突起スパインとシナプス接合部の構造的および機能的組織化において役割を果たす可能性がある。、類似性:SHANK ファミリーに属します。、類似性:1つの PDZ (DHR) ドメインを含みます。、類似性:1つの SAM (無菌アルファモチーフ) ドメインを含みます。、細胞内局在:細胞質、神経細胞のシナプス後密度。、サブユニット:CCTN/コルタクチン SH3 ドメイン、DLGAP1/GKAP、および α -ラトロトキシン受容体 1 と相互作用します。DLG4/PSD-95 および DLGAP1/GKAP との複合体の一部です。GRID2、SLC9A3、CFTR、および PLCB3 と相互作用します。DBNL と相互作用します (類似性による)。DNM2 と相互作用します。BAIAP2 と相互作用します。、組織特異性:アイソフォーム E は、上皮性結腸細胞に存在します (タンパク質レベル)。

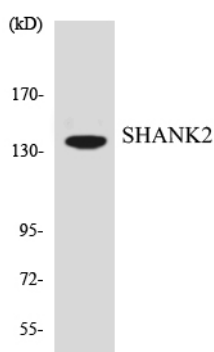
研究分野

神経科学; 神経伝達; 細胞内シグナル伝達; アダプター

画像データ



RAW264.7、Jurkat、HepG2、および COLO 細胞のライセートを SHANK2 抗体を用いてウェスタンブロット解析した。右レーンには合成ペプチドでブロッキングされている。



SHANK2 抗体を使用した HT-29 細胞の溶解物のウェスタンブロット分析。

Shank 2 ポリクローナル抗体を用いた RAW264.7 細胞のウェスタンブロット解析

